

皆さんこんにちは。規則正しい生活を送っていますか？体調に気をつけて、栄養のあるものをしっかりと食べて、睡眠も適切にとって、健康でいてくださいね。

さて今日は国語のお話。

「こういうのが、サッとでてくるとなんだかカッコいいよね」シリーズ その1です。

昨日は肌寒い雨の一日でしたが、今日はぽかぽかと暖かくなっていましたね。あちらこちらの桜も美しく、まさに春。美しい高雄の山々を眺めながらひなたぼっこなんてしていたら、うとうとと眠くなつきそうです。

そんなときに、頭に浮かぶ漢詩の一節が、これ。

『春眠 暁を覚えず』（しゅんみん、あかつきをおぼえず。と読みます。三年生の皆さん、去年勉強しましたね。）

「ああ、春の眠りは気持ちがよくて、朝になったのも気づかないくらいだ。」…そんな意味です。朝、お布団の中でぬくぬくと丸まって眠っているのは気持ちがいいものですよね。寒い冬が終わって暖かくなってきたこの春の陽気のなかで、いつまでも眠っていたい…。

…と、昔々の中国の人々もそんなことを感じたようです。現代の私たちと、時間の流れや毎日の過ごし方は違えど、思うことは一緒ですね。

ちなみにこの漢詩は、唐時代の詩人、孟浩然（もうこうねん）の「春曉（しゅんぎょう）」という作品です。

しゅんみん あかつき
春眠 暁を覚えず（春の眠りは、夜が明けたのも気づかないほど気持ちがいい）
しょしょ ていちょう
処処 啼鳥を聞く（おや、あちらこちらで鳥の鳴き声が聞こえるぞ）
やらい ふうう こえ
夜来 風雨の声（でも、そういえば、夜には雨や風の音がしていたなあ…）
はなお たじょう
花落つること 知る多少（美しく咲いていた花は一体どれくらい散ってしまったのだろう、残念だなあ…）

のどかな春の夜明けについてうたった、とても素敵な作品です。（こういうのが、サッと言えると、なんだかちょっとかっこいいですよね。）

今の季節にぴったりのこの漢詩。よかつたら声に出して読み、暗唱してみてくださいね。頭が活性化されて、目がぱっちりと冴えるかもしれませんね。